

2027年3月期 第1四半期

決算説明資料

2026年8月10日
株式会社ワコールホールディングス
証券コード：3591

皆さま、こんにちは。株式会社ワコールホールディングス 取締役 執行役員の廣岡です。
それでは、2027年3月期第1四半期決算について、資料に沿ってご報告します。

目次

1. 2027年3月期 第1四半期 決算概況	・・・ P.3
2. 2027年3月期 第1四半期 決算概況（セグメント別）	・・・ P.11
・ ワコール事業（国内）	・・・ P.12
・ ワコール事業（海外）	・・・ P.14
・ ピーチ・ジョン事業	・・・ P.16
3. 財務・株主還元	・・・ P.17
4. Appendix	・・・ P.20

2ページです。本日のアジェンダです。

27年3月期第1四半期決算の概況、セグメント別概況、財務・株主還元についてご説明します。

2027年3月期 第1四半期 決算概況

はじめに、27年3月期第1四半期決算について概況をご説明します。

27/3期 1Q エグゼクティブサマリー

売上収益 489億円	前年同期差 (前年同期比) +39億円 (+8.8%)	・国内は苦戦したものの、米国・欧州の寄与により伸長 ・海外ではEC販売の拡大や米国におけるGlamorise社買収、英国 Bravissimo社の火災影響の反動もあり、海外事業が全体を下支え
売上総利益 286億円	前年同期差 (前年同期比) +24億円 (+9.1%)	・米国はEC販売中心のGlamorise社買収に伴う利益構造の変化による粗利率の向上及び関税の還付により粗利額が増加 ・欧州は利益率の高い北米でのEC販売が増加し粗利率が向上
事業利益 16億円	前年同期差 (前年同期比) -8億円 (-34.3%)	・国内のフレックス定年制度廃止に伴う一時的な人件費戻し入れの反動及び米国のブランド認知向上の先行投資等で減益 ・一部費用の後倒し等により計画比では増益
営業利益 18億円	前年同期差 (前年同期比) -180億円 (-90.8%)	・前年同期に計上した固定資産売却益（新京都ビル等）の反動により大幅な減益

4ページです。

2027年3月期第1四半期決算のエグゼクティブサマリーです。

売上収益は489億円でした。国内は得意先販促施策の縮小や6月の気温低下などの影響を受け苦戦しましたが、米国でのグラマライズ社買収効果や、欧州における前年火災影響の反動などにより、前年同期を39億円上回りました。

売上総利益は286億円でした。増収に加え、米国における関税の還付や、欧州における利益率の高い北米EC販売の増加などにより、前年同期を24億円上回りました。

事業利益は16億円でした。前年同期のフレックス定年制度廃止に伴う一時的な人件費戻し入れの反動や、米国でのブランド認知向上に向けた先行投資などにより、前年同期を8億円下回りました。一方、計画対比では増益となりました。

営業利益は18億円でした。前年同期に計上した固定資産売却益の反動により、大幅な減益となりました。

27/3期 1Q 実績

(単位：百万円)

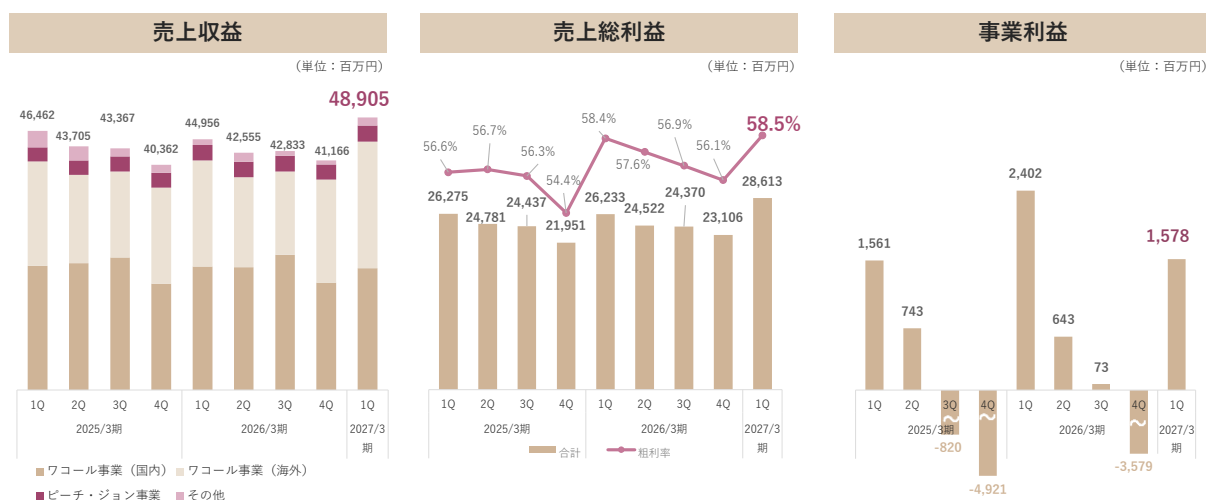
	26/3期 1Q実績		27/3期 1Q実績		前年同期差	
	実績	売上比	実績	売上比	増減額	増減率
売上収益	44,956	—	48,905	—	+3,949	+8.8%
ワコール事業（国内）	22,270	49.5%	21,817	44.6%	-453	-2.0%
ワコール事業（海外）	18,436	41.0%	22,735	46.5%	+4,299	+23.3%
ピーチ・ジョン事業	2,783	6.2%	2,897	5.9%	+114	+4.1%
その他	1,467	3.3%	1,456	3.0%	-11	-0.7%
売上総利益	26,233	58.4%	28,613	58.5%	+2,380	+9.1%
販管費	23,831	53.0%	27,035	55.3%	+3,204	+13.4%
事業利益	2,402	5.3%	1,578	3.2%	-824	-34.3%
ワコール事業（国内）	604	1.3%	-275	—	-879	—
ワコール事業（海外）	1,621	3.6%	1,785	3.6%	+164	+10.1%
ピーチ・ジョン事業	11	0.0%	7	0.0%	-4	-36.4%
その他	65	0.1%	29	0.1%	-36	-55.4%
調整額	101	0.2%	32	0.1%	-69	-68.3%
営業利益	19,800	44.0%	1,812	3.7%	-17,988	-90.8%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	13,707	30.5%	1,553	3.2%	-12,154	-88.7%

※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を遡及修正
 ※ 当期より報告セグメントの区分方法を変更。セグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示

5ページです。第1四半期実績のまとめとなりますので、割愛します。

売上収益・売上総利益・事業利益の四半期推移

米国でのGlamorise社買収や英国の火災影響の反動による売上増加が寄与し、
売上収益、売上総利益が伸長。事業利益は減益も、計画対比では上振れ



※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を遡及修正
 ※ 当期より報告セグメントの区分方法を変更。セグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示

6ページです。売上収益、売上総利益、事業利益の四半期ごとの推移です。

米国でのグラマライズ社買収などが寄与し、売上収益、売上総利益は伸長しました。

事業利益については、販管費の増加により前年同期からは減益となりましたが、計画対比では一部経費の後ろ倒し等により上振れて着地しています。

27/3期 1Q 利益影響項目

(単位：百万円)

	26/3期 1Q実績	27/3期 1Q実績	前年同期差		増減理由
			増減額	増減率	
事業利益	2,402	1,578	-824	-34.3%	
その他収益	17,452	296	-17,156	-98.3%	新京都ビル等の固定資産売却益約168億円の減少
その他費用	54	62	+8	+14.8%	
営業利益	19,800	1,812	-17,988	-90.8%	
金融収益	680	1,012	+332	+48.8%	受取配当金、為替差益の増加
金融費用	253	206	-47	-18.6%	
持分法による投資損益	-97	-10	+87	—	
税引前四半期利益	20,130	2,608	-17,522	-87.0%	
法人所得税費用	6,437	1,101	-5,336	-82.9%	税引前四半期利益の減少
四半期利益	13,693	1,507	-12,186	-89.0%	
非支配持分損益	-14	-46	-32	—	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	13,707	1,553	-12,154	-88.7%	

※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を遡及修正

7

7ページです。こちらは、事業利益から親会社の所有者に帰属する四半期利益までの利益影響項目です。

事業利益は16億円となりました。

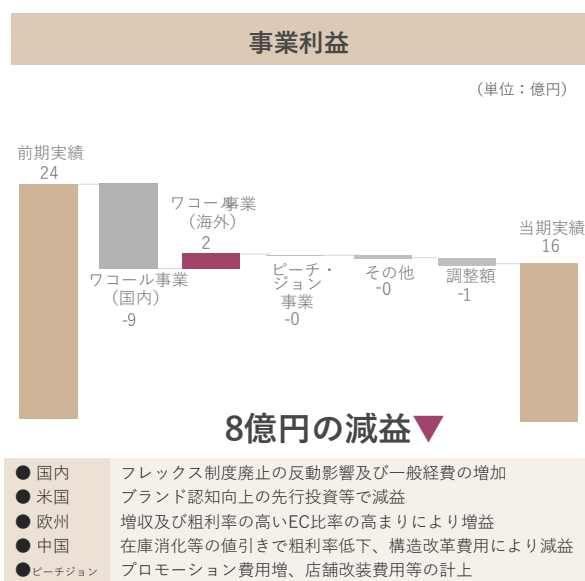
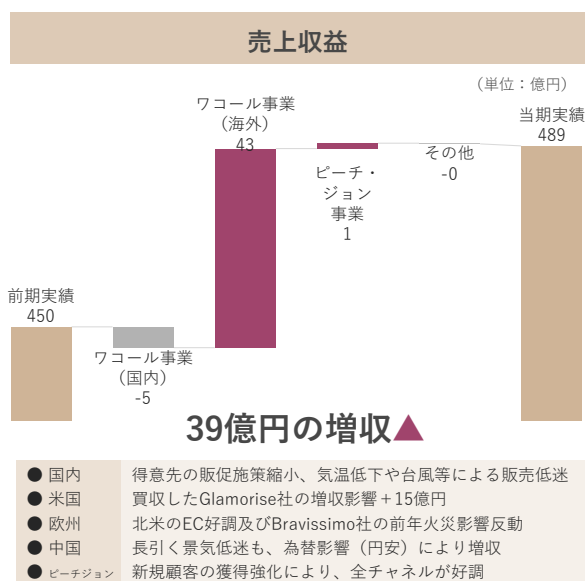
その他収益は3億円で、前年同期に新京都ビルの固定資産売却益約168億円計上の反動により、前年同期から大きく減少しました。

この結果、営業利益は18億円となりました。

金融収益については、受取配当金や為替差益の増加により増加しました。

税引前四半期利益は26億円、法人所得税費用を差し引いた四半期利益は15億円となり、親会社の所有者に帰属する四半期利益は16億円となりました。

27/3期 1Q 売上収益・事業利益の前年同期差



※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を適及修正
 ※ 当期より報告セグメントの区分方法を変更。セグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示

8ページです。売上収益と事業利益の前年同期差をセグメントごとに記載しています。

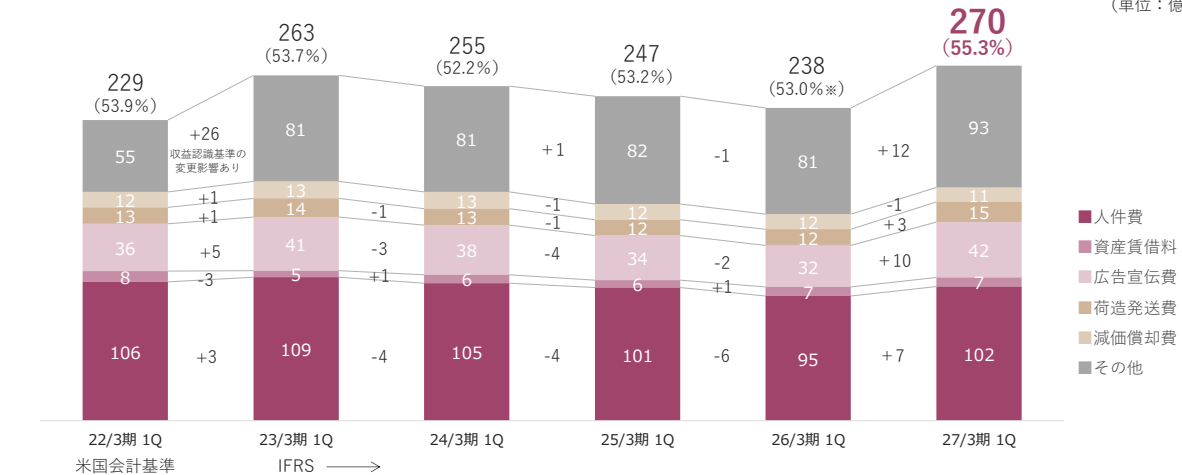
売上収益は39億円の増収となりました。国内は苦戦したものの、米国でのグラマライズ社買収効果や欧州の伸長による増収などが寄与しました。

事業利益は8億円の減益となりました。国内における前年同期のフレックス定年制度による人件費戻し入れの反動や、米国での先行投資による販管費の増加が影響しました。一方、欧州は増収とEC販売の拡大により増益となりました。

27/3期 1Q 販管費の推移

為替影響及び米国におけるM&A、ブランド認知向上への先行投資等により増加

※ワコールグループ連結数値に基づいて作成
(単位：億円)

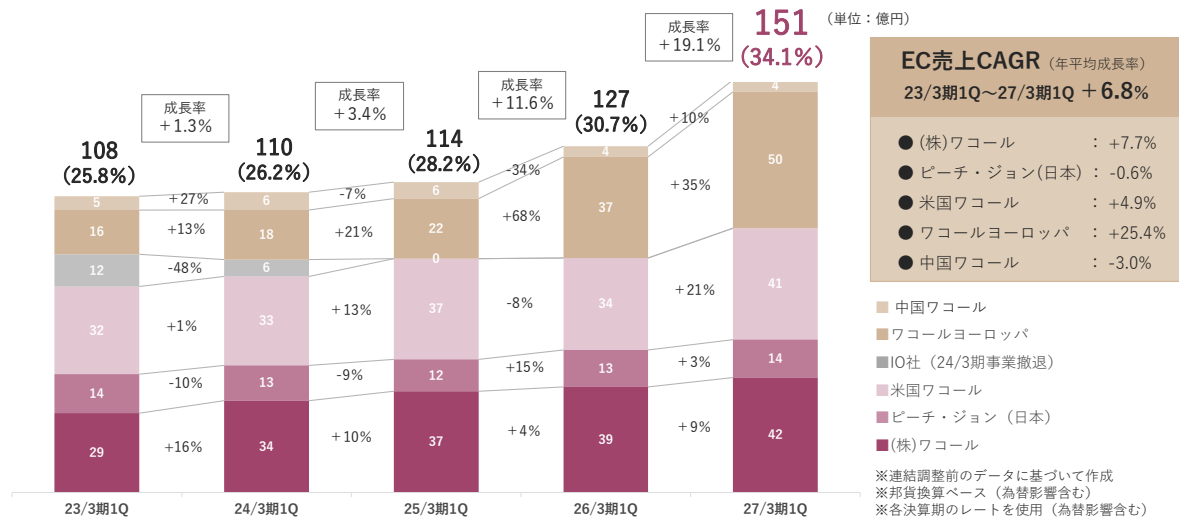


9ページです。ワコールグループの販管費推移です。当第1四半期の販管費は270億円となりました。為替影響に加え、米国におけるブランド認知向上への先行投資、グラマライズ社の買収に伴い、人件費、広告宣伝費、荷造発送費、その他経費などが増加し、前年同期から30億円増加しました。今後も成長に向けた必要な投資は実行しつつ、各社で費用対効果を見極めながらコストコントロールを進めてまいります。

27/3期 1Q EC事業の進捗

米国における買収が寄与し、主要5社合計のEC比率は34%を超え、EC売上が拡大加速

(EC比率：(株)ワコール 19%、ピーチ・ジョン(日本) 52%、米国ワコール 52%、ワコールヨーロッパ 49%、中国ワコール 27%)



※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を適正修正

※ 27/3期以降開示資料における(株)ワコールのEC比率は、中期経営計画2029における新定義(自社ECおよび専業ECプラットフォームのみ)に基づき算出。そのため26/3期以前の開示資料の数値とは異なる

10

10ページです。こちらのスライドでは、主要5社のEC売上の推移をまとめています。

自社ECと直営店を主力チャネルとして展開する英国のブラビッシンモ社を買収したことに加え、EC販売中心の米国グラマライズ社の買収により、EC売上比率が拡大しました。

なお、株式会社ワコールのEC比率については、自社の戦略・販促施策との関連性が高いチャネルを対象とする考え方に見直し、自社ECおよび専業ECプラットフォームのみをKPIの対象としています。

各社とも、EC事業は成長戦略における重要な位置づけとなるため、更なる成長の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

2027年3月期 第1四半期 決算概況（セグメント別）

次に、セグメント別の概況をご説明します。

【セグメント別】ワコール事業(国内)の概況

売上収益 218億円	前年同期差 (前年同期比) -5億円 (-2.0%)
----------------------	-------------------------------------

実店舗は得意先の大型販促施策縮小等の影響を受け苦戦するも、ECは販促施策等が奏功し前年同期比で大きく伸長し、計画も上回る

- **チャネル別** 実店舗：量販店得意先の大型販促施策の縮小の影響を受け苦戦
EC：自社ECは広告投下、大型販促の実施により集客が大幅伸長。主要プラットフォームのイベントに合わせた施策も奏功し他社ECも躍進
- **ブランド別** WACOAL・Wing：得意先の大型販促施策縮小の影響により低調
Yue：スター品番の充足率向上によりリピート率が高まり好調に推移
CW-X：アスリート着用でブランド認知が拡大し、実店舗・ECともに伸長

事業利益 -3億円	前年同期差 (前年同期比) -9億円 (—)
---------------------	---------------------------------

減収やフレックス定年制度廃止に伴う一時的な人件費戻し入れの反動等の影響により減益

- 減収や原材料高、為替影響があるも（株）ワコール単体では納品コントロールによる返品減少で粗利率は約1ポイント改善
- 前年同期に計上したフレックス定年制度廃止による人件費の戻し入れ※1の反動や一般経費増加の影響で減益も、（株）ワコール単体では計画対比インラインで推移
- （株）ワコール単体では黒字も、会計基準の連単差※2によりセグメント合計では事業赤字

子会社名	売上収益（単位：億円）		売上総利益率（粗利率）		販管費率		事業利益（単位：億円）	
	27/3期1Q	前年同期差	27/3期1Q	前年同期差	27/3期1Q	前年同期差	27/3期1Q	前年同期差
（株）ワコール ※日本基準	206	-5	57.6%	+0.9pt	56.8%	+1.1pt	2	-0.5

※ 当期より報告セグメントの区分方法を変更。セグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示

※1 フレックス定年制度の廃止により退職給付に係る負債を取崩し人件費の戻し入れが発生

※2 単体上は日本基準、連結上はIFRS（国際会計基準）を適用

12

12ページです。ワコール事業国内についてです。

売上収益は218億円でした。実店舗は量販店得意先の販促施策縮小や6月の気温低下などの影響を受け販売が伸び悩みました。ECについては自社EC、他社ECともに好調に推移しました。

ブランド別では、ユエやシーダブリュー・エックスが伸長した一方、ワコールやウイングは苦戦しました。事業利益は3億円の赤字となりました。粗利率は改善したものの、前年同期の人件費戻し入れの反動や一般経費の増加により減益となりました。なお、株式会社ワコール単体では黒字を確保しています。

【セグメント別】ワコール事業(国内)のトピックス

独自技術・デジタル活用を通じて新たな成長機会の創出を推進

「Meloopラボ」の開設

- 2026年5月に研究開発拠点「Meloopラボ」を京都に開設
- BASF社との協業による自動車分野への展開も進め、事業領域の拡大を推進

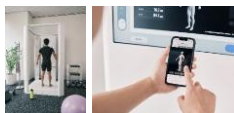
樹脂型に繊維を吹き付け
立体物を成形車両用アームレストの
試作品

事業展開ロードマップ



「SCANBE base」の提供開始

- SCANBEの知見を活用した新サービス「SCANBE base」の提供を開始
- スポーツ・ヘルスケア領域向けとしてゴールドジムなど※1でサービス開始



3D計測の様子

計測結果は
スマートフォンでも確認可

- ① 3Dスキャン：約3秒
- ② 体験時間：約10分
- ③ 設置拠点：4施設
- ④ 性別を問わず利用可能

PHR（Personal Health Record）サービス市場は
2030年には約1兆円規模へ成長見込み※2



「わたしに合うブラ診断」アップデート

- 対象をSMLサイズブラ（主にノンワイヤー）まで拡大
- 診断対象ブランド・品番の拡充により、顧客接点・商品露出・購買機会の拡大を推進



※1 グラングリーン大阪「SLOW AND STEADY」、ゴールドジム（銀座東京店、東中野東京店、大阪中之島店）2026年7月時点

※2 出典 経済産業省「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業（PHR活用促進に向けた調査及び日常生活におけるPHRを活用したユースケース創出に向けた実証調査事業）報告書 2025年3月31日」

※3 2025/7/14～2026/6/30（わたしに合うブラ診断を利用した延べ人数）

※4 2025/7/14～2026/6/30（わたしに合うブラ診断を利用した人のワコールウェブストア内注文率）

13ページです。ワコール事業国内のトピックスについてご説明します。

国内では、独自技術とデジタル活用を通じて、新たな成長機会の創出に取り組んでいます。

まず左側をご覧ください。2026年5月、京都に研究開発拠点である「メループラボ」を開設しました。メループは、樹脂型に繊維を吹き付けて立体物を成形する独自技術です。インナーウェア領域での活用に加え、BASF社との協業による自動車分野への展開も進めています。今後は非インナー領域への資材提供や、将来的にはメループ資材搭載車の市場投入も見据え、事業領域の拡大を図ります。

次に真ん中の「スキャンビー ベース」についてです。スキャンビーの知見を活用した新サービスとして、スポーツ・ヘルスケア領域向けに提供を開始しました。約3秒で3D計測が可能で、計測結果はスマートフォンでも確認できます。現在はグラングリーン大阪やゴールドジムの一部店舗などでサービスを開始しています。

最後に右側の「わたしに合うブラ診断」です。診断対象を拡大し、顧客接点や購買機会の拡大を進めています。利用者数は100万人を突破し、購入率も高い水準を維持しています。

【セグメント別】ワコール事業(海外)の概況

売上収益 227 億円	前年同期差 (前年同期比) +43億円 (+23.3%)
-----------------------	---------------------------------------

事業利益 18 億円	前年同期差 (前年同期比) +2億円 (+10.1%)
----------------------	--------------------------------------

米国での買収による増収、欧州の前年発生火災影響の反動等で伸長

- 米国：Glamorise社の買収による増収に加え、主要ECプラットフォーム販促施策時期の前倒し等の効果もありECが伸長
- 欧州：前年の関税影響の反動で北米ECが好調だったことに加え、Bravissimo社において前年同期に発生した火災影響の反動等もあり増収
- 中国：販促活動の強化や商品構成の見直し等の効果により計画対比で実店舗販売は堅調に推移するも、ECの大型販促イベント等が振るわず苦戦。為替影響により増収

米国での広告宣伝費、中国の構造改革費用計上も欧州の好調がカバー

- 米国：Glamorise社買収によるEC比率の向上や関税の還付等※により粗利率は上昇
SNS・インフルエンサー・屋外広告等を連動したブランド認知向上施策に先行投資
※約3億円が売上原価に戻し入れ
- 欧州：増収及び粗利率の高い北米のEC販売が好調に推移し増益
- 中国：在庫消化による値引き実施で粗利率は悪化。不採算店舗撤退に伴う費用等により販管費率は上昇するも、着実に構造改革は進展

子会社名	売上収益 (単位：億円)		売上総利益率 (粗利率)		販管費率		事業利益 (単位：億円)	
	27/3期1Q	前年同期差	27/3期1Q	前年同期差	27/3期1Q	前年同期差	27/3期1Q	前年同期差
ワコールインターナショナル(米国)※Glamorise社含む	89	+23	52.2%	+1.5pt	45.1%	+5.5pt	7	-0.9
ワコールヨーロッパ※Bravissimo社含む	105	+18	65.0%	+1.5pt	53.7%	-0.7pt	12	+4
中国ワコール	20	+2	67.4%	-2.0pt	80.3%	+1.5pt	-3	-0.9

※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を遡及修正
※ 当期より報告セグメントの区分方法を変更。セグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示

14

14ページです。ワコール事業海外についてです。

売上収益は227億円でした。米国ではグラマライズ社の買収により売上が拡大しました。欧州も北米ECの好調や前年火災影響の反動により伸長しました。一方、中国は実店舗販売が堅調だったものの、EC販売は苦戦しました。

事業利益は18億円でした。米国は買収によるEC販売比率の向上や関税の還付などが寄与し、粗利率があがりました。また欧州でも北米のEC販売が好調に推移し、同様に粗利率が増加しました。一方、米国においてブランド認知向上のための先行投資や中国では構造改革費用等の影響で減益となりましたが、欧州の増益が寄与し、前年同期を上回りました。

【セグメント別】ワコール事業(海外)のトピックス

米国ではGlamorise社のPMIが順調に進展し、中国では収益改善に向けた施策が計画通り進捗

米国：Glamorise社PMIによる シナジー創出が進展

PMI分科会の統合作業が順調に進展

- 人事・財務・ITインフラを中心に**統合が着実に進展**
- ERP統合など継続課題はあるものの、全体としては概ね計画通り、コスト削減施策は**前倒しで進捗**
- PMI分科会による課題管理を継続し、**統合効果の最大化を図る**

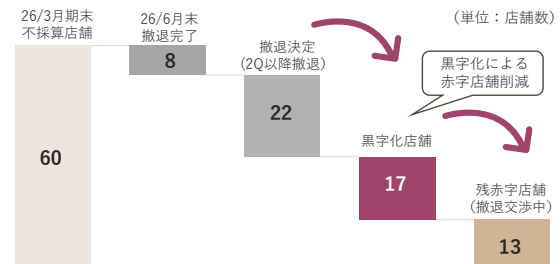
売上拡大シナジー	コスト削減シナジー
2Q以降創出フェーズへ 2026年8月よりGlamorise.comでWacoal商品の発売を開始 2026年7月より直営店・アウトレットなどのWacoalチャネルでGlamorise商品の販売を開始	計画より前倒しで進捗 - 人員統合に伴う人件費削減効果が当初想定を上回り推移 - オフィス統合を前倒しで推進、固定費削減に向け取り組み中

中国：不採算店舗の削減と黒字化を推進

不採算店舗の整理、店舗立て直しを着実に実行

- 1Q末までに撤退完了・撤退決定店舗は**計30店舗**
- 条件交渉・調整等により、**17店舗の黒字化**に成功
- 今期黒字に転換した店舗も**継続的にモニタリング**を実施。期中に損益が悪化した際は即撤退候補に転換し、**赤字店舗の解消を徹底**

<不採算店舗削減計画>



15

15ページです。ワコール事業海外のトピックスについてご説明します。

米国では、グラマライズ社のPMIが順調に進展しています。人事、財務、ITインフラを中心に統合が進み、コスト削減施策については計画を上回るペースで進捗しています。今後はシナジー創出フェーズへ移行し、販売面での連携も開始しています。

中国では、収益改善に向けて不採算店舗の整理と店舗の黒字化を進めています。第1四半期末までに30店舗の撤退完了・撤退決定を行い、17店舗の黒字化を実現しました。引き続き店舗損益をモニタリングし、赤字店舗の解消を進めていきます。

【セグメント別】ピーチ・ジョン事業の概況とトピックス

売上収益

29億円

前年同期差（前年同期比）
+1億円（+4.1%）

各種施策が奏功し全チャネルで伸長、特に他社ECが好調

- タレント活用施策により、新規顧客層へのリーチ拡大とブランド認知向上に寄与
- EC販売が好調で、特に他社ECは大手プラットフォーム各社が売上を牽引

事業利益

0億円

前年同期差（前年同期比）
-0億円（-36.4%）

増収効果を販管費増が相殺するも、黒字は確保

- プロモーション費用等の計上で販管費が増加

子会社名	売上収益 (単位：億円)		売上総利益率 (粗利率)		販管費率		事業利益 (単位：億円)	
	27/3期 1Q	前年 同期差	27/3期 1Q	前年 同期差	27/3期 1Q	前年 同期差	27/3期 1Q	前年 同期差
ピーチ・ジョン 連結	29	+1	56.7%	+0.6pt	56.4%	+0.8pt	0.07	-0.04

戦略的なタレント起用で新規顧客を獲得

反響の大きかったタレントを再起用し、
新規顧客層への訴求を強化

- 松島聡さん（timelesz）との人気企画を展開。着用商品およびコラボルームフレグランスの販売が好調

松島聡さんとの人気企画
「恋する、ルームウェア」

- 森香澄さんのミュージズ起用に
伴うプロモーションが奏功し、
ブランド認知が拡大

森香澄さんを
ミュージズに再起用

主力商品の好調が成長を牽引

- タレント起用による認知拡大を
背景に「盛れるノンワイヤー」
「ナイスバディブラ リボン
レース」などの主力商品が引き
続き好調



主力商品「盛れるノンワイヤーブラ」

16ページです。ピーチ・ジョン事業についてです。

売上収益は29億円でした。新規顧客獲得施策が奏功し、全チャネルで伸長しました。特に他社ECが好調に推移したほか、タレント活用施策により新規顧客の獲得とブランド認知の向上が進みました。

事業利益は700万円の黒字となりました。プロモーション費用等の増加があったものの、増収効果により黒字を確保しました。

右側、トピックスとしては、反響の大きかったタレントの再起用や主力商品の好調が売上を牽引しました。「盛れるノンワイヤーブラ」や「ナイスバディブラ リボンレース」に加え、人気企画「恋する、ルームウェア」も好調に推移しています。

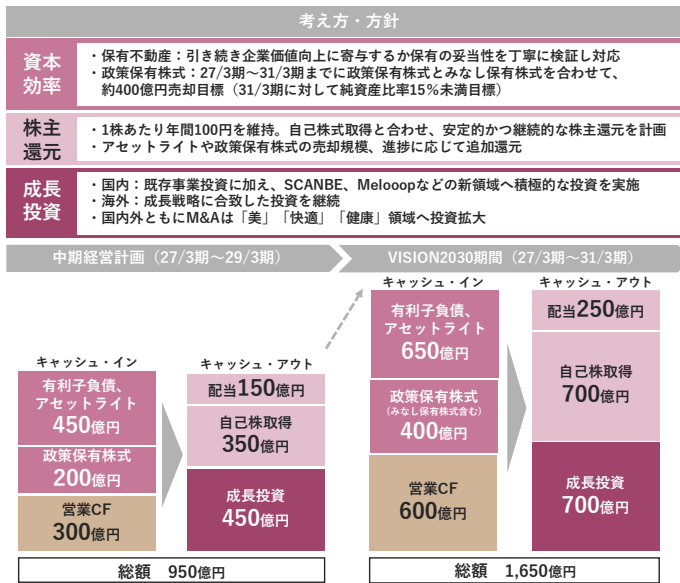
財務・株主還元

最後に、財務・株主還元についてご説明します。

財務戦略

※「中期経営計画2029」説明資料（2026年6月22日開示）を再掲

資本効率の改善に向けて株主還元を継続すると同時に、将来成長への投資を強化



BSの目指すべき姿

- ・資本構成の最適化を通じて、将来的に株主資本1,000億円を目指す
- ・目標とする株主資本の水準を達成することでROE10%以上を実現



18

18ページです。財務戦略についてです。こちらは、2026年6月に開示した中期経営計画2029の再掲です。

当社は、株主還元を継続しながら、スキャンビーやメループなどの新価値創造の領域や、国内外の成長投資を強化していきます。

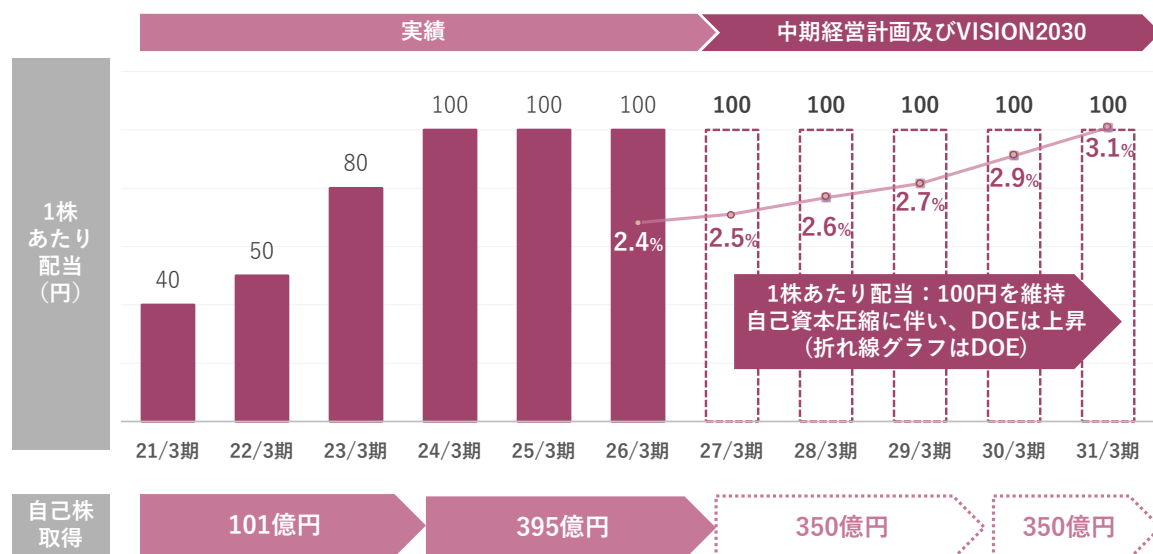
あわせて、保有不動産や政策保有株式の見直しを進め、資本効率の改善を図ります。

株主還元については、年間100円配当の維持に加え、自己株式取得も継続していきます。

財務戦略 株主還元（配当推移・自己株取得）

※「中期経営計画2029」説明資料（2026年6月22日開示）を再掲

1株あたり配当100円の維持と自己株式の取得を通じて、安定的かつ継続的な株主還元を実施



19

19ページです。株主還元についてです。

1株当たり配当100円を維持するとともに、自己株式の取得を通じて、安定的かつ継続的な株主還元を実施していきます。

中期経営計画およびVISION2030の期間を通じて、自己資本の圧縮に伴いDOEは上昇していく見込みです。資本効率の改善と株主還元の両立を図りながら、企業価値向上に取り組んでまいります。

私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

Appendix

27/3期 1Q決算概況

為替レート	1 \$	1 £	1 円
26/3期 1Q実績	144.59	193.01	19.99
27/3期 1Q実績	159.49	213.97	23.43

(単位：百万円)

	26/3期 1Q実績	売上比	27/3期 1Q実績	売上比	対26/3期 1Q実績	
					増減額	増減率
売上収益	44,956	—	48,905	—	+3,949	+8.8%
売上原価	18,723	41.6	20,292	41.5	+1,569	+8.4%
売上総利益	26,233	58.4	28,613	58.5	+2,380	+9.1%
販売費及び一般管理費	23,831	53.0	27,035	55.3	+3,204	+13.4%
事業利益	2,402	5.3	1,578	3.2	-824	-34.3%
その他の収益	17,452	38.8	296	0.6	-17,156	-98.3%
その他の費用	54	0.1	62	0.1	+8	+14.8%
営業利益	19,800	44.0	1,812	3.7	-17,988	-90.8%
金融収益	680	1.5	1,012	2.1	+332	+48.8%
金融費用	253	0.6	206	0.4	-47	-18.6%
持分法による投資利益（損失）	-97	—	-10	—	—	—
税引前利益	20,130	44.8	2,608	5.3	-17,522	-87.0%
親会社の所有者に帰属する当期利益	13,707	30.5	1,553	3.2	-12,154	-88.7%

※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を遡及修正

27/3期 1Q決算概況（セグメント別）

為替レート	1\$	1£	1元
26/3期 1Q実績	144.59	193.01	19.99
27/3期 1Q実績	159.49	213.97	23.43

(単位：百万円)

	26/3期 1Q実績	売上比 (%)	27/3期 1Q実績	売上比 (%)	対26/3期 1Q実績	
					増減額	増減率
ワコール事業（国内）	22,270	49.5	21,817	44.6	-453	-2.0%
ワコール事業（海外）	18,436	41.0	22,735	46.5	+4,299	+23.3%
ピーチ・ジョン事業	2,783	6.2	2,897	5.9	+114	+4.1%
その他	1,467	3.3	1,456	3.0	-11	-0.7%
売上収益	44,956	100	48,905	100	+3,949	+8.8%
	26/3期 1Q実績	売上比 (%)	27/3期 1Q実績	売上比 (%)	増減額	
					増減額	増減率
ワコール事業（国内）	604	1.3	-275	—	-879	—
ワコール事業（海外）	1,621	3.6	1,785	3.6	+164	+10.1%
ピーチ・ジョン事業	11	0.0	7	0.0	-4	-36.4%
その他	65	0.1	29	0.1	-36	-55.4%
調整額	101	0.2	32	0.1	-69	-68.3%
事業利益（損失）	2,402	5.3	1,578	3.2	-824	-34.3%
	26/3期 1Q実績	売上比 (%)	27/3期 1Q実績	売上比 (%)	増減額	
					増減額	増減率
ワコール事業（国内）	17,698	39.4	-48	—	-17,746	—
ワコール事業（海外）	1,689	3.8	1,827	3.7	+138	+8.2%
ピーチ・ジョン事業	33	0.1	11	0.0	-22	-66.7%
その他	361	0.8	45	0.1	-316	-87.5%
調整額	19	0.0	-23	—	-42	—
営業利益	19,800	44.0	1,812	3.7	-17,988	-90.8%

※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を遡及修正
 ※ 当期より報告セグメントの区分方法を変更。セグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示

22

27/3期 1Q決算概況（主要子会社）

為替レート	1\$	1£	1元
26/3期 1Q実績	144.59	193.01	19.99
27/3期 1Q実績	159.49	213.97	23.43

(単位：百万円)

	売上収益				事業利益（損失）				営業利益（損失）			
	26/3期 1Q実績	27/3期 1Q実績	対26/3期 1Q実績 増減額	対26/3期 1Q実績 増減率	26/3期 1Q実績	27/3期 1Q実績	対26/3期 1Q実績 増減額	対26/3期 1Q実績 増減率	26/3期 1Q実績	27/3期 1Q実績	対26/3期 1Q実績 増減額	対26/3期 1Q実績 増減率
ワコール	21,031	20,557	-474	-2.3%	214	162	-52	-24.3%	15,804	346	-15,458	-97.8%
ワコール インター ナショナル	6,626	8,900	+2,274	+34.3%	753	661	-92	-12.2%	751	661	-90	-12.0%
ワコール ヨーロッパ	8,772	10,540	+1,768	+20.2%	789	1,182	+393	+49.8%	820	1,212	+392	+47.8%
中国ワコール	1,816	2,003	+187	+10.3%	-173	-261	-88	—	-159	-263	-104	—
ピーチ・ ジョン	2,783	2,897	+114	+4.1%	11	7	-4	-36.4%	33	11	-22	-66.7%
A i	639	600	-39	-6.1%	17	8	-9	-52.9%	17	8	-9	-52.9%

【海外主要子会社】（現地通貨ベース）（単位：米国：千US\$ ヨーロッパ：千£ 中国：千元）

ワコール インター ナショナル	45,827	55,803	+9,976	+21.8%	5,211	4,141	-1,070	-20.5%	5,201	4,143	-1,058	-20.3%
ワコール ヨーロッパ	45,442	49,259	+3,817	+8.4%	4,075	5,623	+1,548	+38.0%	4,238	5,763	+1,525	+36.0%
中国ワコール	90,855	85,507	-5,348	-5.9%	-8,655	-11,111	-2,456	—	-7,966	-11,220	-3,254	—

※ 原則、各国現地会計基準にて表示
 ※ 2026年3月期中間連結会計期間において、企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2026年3月期第一四半期の数値を遡及修正

23

27/3期 通期計画

為替レート	1 \$	1 £	1 円
26/3期 実績	150.77	202.10	21.25
27/3期 計画	155.00	210.00	22.00

(単位：百万円)

	26/3期 実績	売上比	27/3期 計画	売上比	対前期	
					増減額	増減率
売上収益	171,510	—	187,600	—	+16,090	+9.4%
売上原価	73,279	42.7	78,930	42.1	+5,651	+7.7%
売上総利益	98,231	57.3	108,670	57.9	+10,439	+10.6%
販売費及び一般管理費	98,692	57.5	108,170	57.7	+9,478	+9.6%
事業利益	-461	—	500	0.3	+961	—
その他の収益	24,080	14.0	1,150	0.6	-22,930	-95.2%
その他の費用	3,742	2.2	150	0.1	-3,592	-96.0%
営業利益	19,877	11.6	1,500	0.8	-18,377	-92.5%
金融収益	2,075	1.2	1,510	0.8	-565	-27.2%
金融費用	785	0.5	750	0.4	-35	-4.5%
持分法による投資利益（損失）	-1,514	—	340	0.2	+1,854	—
税引前利益	19,653	11.5	2,600	1.4	-17,053	-86.8%
親会社の所有者に帰属する当期利益	13,124	7.7	1,800	1.0	-11,324	-86.3%

24

27/3期 通期計画（セグメント別）

為替レート	1 \$	1 £	1 円
26/3期 実績	150.77	202.10	21.25
27/3期 計画	155.00	210.00	22.00

(単位：百万円)

	26/3期 実績	売上比（%）	27/3期 計画	売上比（%）	対前期	
					増減額	増減率
ワコール事業（国内）	88,428	51.6	90,400	48.2	+1,972	+2.2%
ワコール事業（海外）	66,138	38.5	79,300	42.3	+13,162	+19.9%
ビーチ・ジョン事業	11,144	6.5	11,800	6.3	+656	+5.9%
その他	5,800	3.4	6,100	3.2	+300	+5.2%
売上収益	171,510	100.0	187,600	100.0	+16,090	+9.4%
	26/3期 実績	売上比（%）	27/3期 計画	売上比（%）	増減額	増減率
ワコール事業（国内）	-1,228	—	-1,325	—	-97	—
ワコール事業（海外）	349	0.5	1,240	1.6	+891	+255.3%
ビーチ・ジョン事業	130	1.2	140	1.2	+10	+7.7%
その他	-108	—	50	0.8	+158	—
調整額	396	—	395	—	-1	-0.3%
事業利益（損失）	-461	—	500	0.3	+961	—
	26/3期 実績	売上比（%）	27/3期 計画	売上比（%）	増減額	増減率
ワコール事業（国内）	19,184	21.7	0	0.0	-19,184	-100.0%
ワコール事業（海外）	132	0.2	1,250	1.6	+1,118	+847.0%
ビーチ・ジョン事業	149	1.3	100	0.8	-49	-32.9%
その他	298	5.1	100	1.6	-198	-66.4%
調整額	114	—	50	—	-64	-56.1%
営業利益（損失）	19,877	11.6	1,500	0.8	-18,377	-92.5%

※ 当期より報告セグメントの区分方法を変更。セグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示

25

27/3期 通期計画（主要子会社）

為替レート	1\$	1£	1円
26/3期 実績	150.77	202.10	21.25
27/3期 計画	155.00	210.00	22.00

(単位：百万円)

	売上収益				事業利益（損失）				営業利益（損失）			
	26/3期 実績	27/3期 計画	増減額	増減率	26/3期 実績	27/3期 計画	増減額	増減率	26/3期 実績	27/3期 計画	増減額	増減率
ワコール	82,998	84,822	+1,824	+2.2%	690	1,400	+710	+102.9%	18,549	2,207	-16,342	-88.1%
ワコール インター ナショナル	22,952	30,111	+7,159	+31.2%	-256	0	+256	—	-335	0	+335	—
ワコール ヨーロッパ	30,829	36,221	+5,392	+17.5%	1,435	2,355	+920	+64.1%	2,180	2,355	+175	+8.0%
中国ワコール	7,481	7,700	+219	+2.9%	-847	-946	-99	—	-853	-961	-108	—
ピーチ・ジョン (連結)	11,144	11,800	+656	+5.9%	130	140	+10	+7.7%	149	100	-49	-32.9%
A i	2,858	2,940	+82	+2.9%	78	120	+42	+53.8%	72	126	+54	+75.0%

【海外主要子会社】（現地通貨ベース）（単位：米国：千US\$ ヨーロッパ：千£ 中国：千元）

ワコール インター ナショナル	152,234	194,263	+42,029	+27.6%	-1,694	0	+1,694	—	-2,221	0	+2,221	—
ワコール ヨーロッパ	152,563	172,482	+19,919	+13.1%	7,112	11,215	+4,103	+57.7%	10,798	11,215	+417	+3.9%
中国ワコール	352,044	350,000	-2,044	-0.6%	-39,919	-43,000	-3,081	—	-40,163	-43,660	-3,497	—

※ 原則、各国現地会計基準にて表示

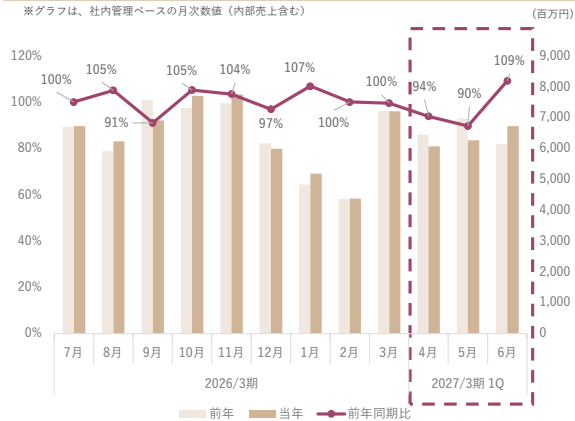
26

国内主要子会社の売上月次推移

(株) ワコール

27/3期1Q累計:前年同期比97% ▼

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）

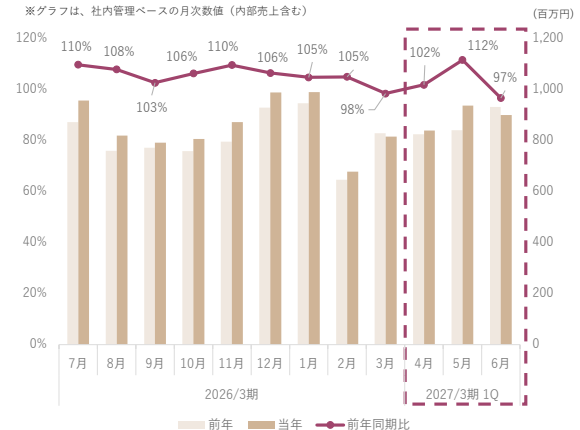


2026年4月 前年▼ ×他社EC納品苦戦 ○自社EC好調
 2026年5月 前年▼ ×実店舗納品苦戦 ○自社EC好調
 2026年6月 前年▲ ○自社EC、他社ECとも好調 ○実店舗納品進行

(株) ピーチ・ジョン

27/3期1Q累計:前年同期比103% ▲

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）



2026年4月 前年▲ ○EC、実店舗とも好調
 2026年5月 前年▲ ○EC、実店舗とも好調
 2026年6月 前年▼ ×実店舗苦戦（販促月ずれ影響）△自社EC低調

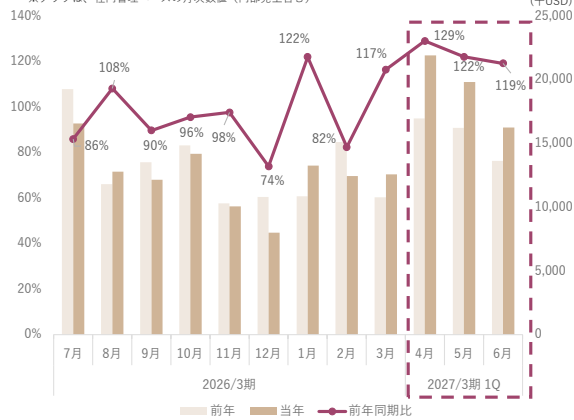
27

海外主要子会社の売上月次推移①

米国ワコール※Glamorise社含む

27/3月期1Q累計:前年同期比124%▲

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）

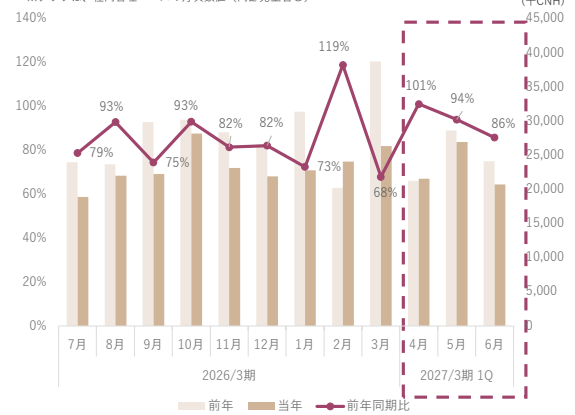


2026年4月 前年▲ ○買収による増収 ×自社EC苦戦
 2026年5月 前年▲ ○買収による増収 ○自社EC好調 ×百貨店苦戦
 2026年6月 前年▲ ○買収による増収 ○EC好調 ×百貨店苦戦

中国ワコール

27/3月期1Q累計:前年同期比94%▼

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）



2026年4月 前年▲ ○EC好調 ×実店舗苦戦
 2026年5月 前年▼ ×実店舗苦戦(既存店は堅調) ×EC苦戦
 2026年6月 前年▼ ×実店舗苦戦 ×EC苦戦

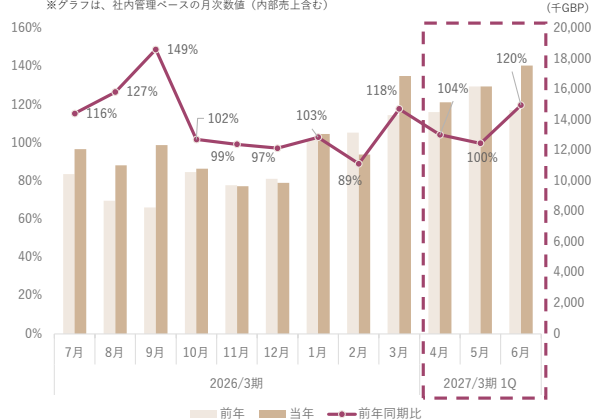
28

海外主要子会社の売上月次推移②

ワコールヨーロッパ※Bravissimo社含む

27/3月期1Q累計:前年同期比108%▲

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）

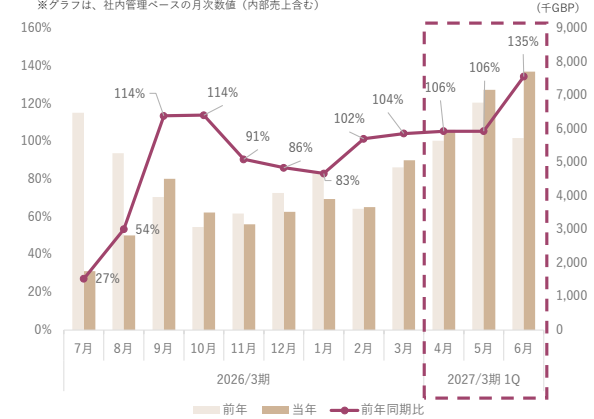


2026年4月 前年▲ ○北米好調 △英国、欧州低調(月ずれ影響)
 2026年5月 前年▲ ○北米好調 ×英国不調
 2026年6月 前年▲ ○欧州堅調 ○北米好調

Bravissimo社

27/3月期1Q累計:前年同期比115%▲

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）



2026年4月 前年▲ ○直営店好調 ×EC苦戦
 2026年5月 前年▲ ○直営店好調 ×EC苦戦
 2026年6月 前年▲ ○前年6月下旬発生の物流倉庫火災影響の反動

29

連結財政状態計算書（BS）

（単位：億円）

	2026年3月末	構成比	2026年6月末	構成比	増減	
現金及び現金同等物	442		① 317		-124	① 法人税の支払い及び Glamorise社買収費用支払いによる減少
営業債権及びその他の債権	174		190		+15	
棚卸資産	511		522		+11	
その他	69		82		+13	
流動資産 計	1,196	40.9%	1,111	38.1%	-85	
有形固定資産・無形資産・使用権資産	583		575		-8	
のれん	155		② 200		+45	② Glamorise社買収によるのれんの増加
その他の金融資産	473		③ 513		+40	③ 有価証券の時価評価上昇
その他	516		520		+4	
非流動資産 計	1,727	59.1%	1,808	61.9%	+81	
資産 合計	2,923		2,919		-4	
	2026年3月末	構成比	2026年6月末	構成比	増減	
営業債務及びその他の債務（買掛債務）	124		128		+4	
借入金	123		124		+1	
リース負債	120		119		-1	
繰延税金負債	193		④ 210		+17	④ 有価証券評価差額の増加
その他	239		⑤ 182		-57	⑤ 法人税支払いによる減少
負債 計	799	27.3%	763	26.1%	-36	
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,096		⑥ 2,128		+32	⑥ 有価証券の時価評価上昇及び 為替換算差額の増加
非支配持分	28		28		0	
資本 計	2,124	72.7%	2,156	73.9%	+32	
負債及び資本 合計	2,923		2,919		-4	

30

（参考）ワコールのブランド展開（国内）

中核子会社である（株）ワコールでは徹底した「顧客起点」のブランドマネジメントを推進し、提供価値が明確な魅力あふれるブランドの育成を目指す。現在、レディスインナーウェアを中心に12のブランドを展開



31

(参考) ワコールのブランド展開 (海外)

世界各国の文化やニーズに寄り添いながら、グローバル市場で魅力あるブランドを展開



32

ディスクレーマー

この資料に掲載されている情報のうち、将来の業績に関する見通しについては、本資料の作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、その実現・達成を保証又は約束するものではありません。また今後、予告なしに変更されることがあります。

これらの情報の掲載にあたっては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りに関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

IRお問い合わせ先

株式会社ワコールホールディングス

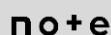
IRサイト：<https://www.wacoalholdings.jp/ir/>

お問合せ先：ir-wmg@wacoal.co.jp

IR情報の発信



株式会社ワコールホールディングスIR・広報
https://x.com/Wacoal_IR_PR



株式会社ワコールホールディングスIR
https://note.com/wacoal_ir

33